



生物多様性の視点を取り入れた 里地・里山における取組

くらし・環境部環境局



長い歴史の中で様々な人の働きかけを通じて、豊かな
恵みを与えてきた里地・里山



いま、里地・里山に求められるもの

ライフスタイルの変化や担い手不足により、人々との関わりが薄れた里地・里山

生態系のバランスが崩れ、雑木林の荒廃、放置竹林の増加、野生鳥獣や外来生物による被害等が進行

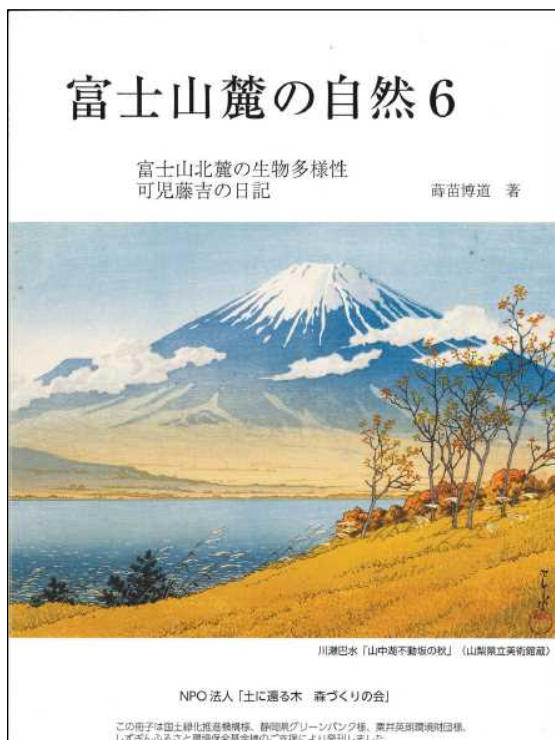


里地・里山の自然環境の保全のためには、
人による働きかけの継続が必要



里地・里山の保全活動の事例(1)

NPO法人土に還る木森づくりの会（御殿場市）



- ・ 地域の動植物を調査し、冊子にまとめ、地元の学校に配布
- ・ 森づくり活動で間伐した木を活かし、企業等へ販売し活動資金を確保



里地・里山の保全活動の事例(2)



あなたと森林・里山との「関わりしろ」を考える。

※「関わりしろ」とは、関わっていい場所のこと。

里山の恵みを活かし、分かち合うことを目指す実践地を舞台に、そこ(里山)で暮らす地域住民と都市(まち)で暮らす住民が、各々の環境、立場を越えた自由な発想で、自らの「関わりしろ」(＝関わり方)を一緒に考える2日間。

2019年6月15日(土)・16日(日)

【場所】静岡県掛川市倉真 【定員】300人

お申込み・お問合せ

直接お申込みをご記入のうえ、FAX又はメールにてお申込みください。締め切り:5月31日(金)
「森林と市民を結ぶ全国の集い2019 in 静岡・掛川」実行委員会
事務局: NPO法人時ノ寿の森クラブ
TEL/FAX: 0537-28-0082 | mail: info@tokinosunomori.com



主催: 森林と市民を結ぶ全国の集い2019 in 静岡・掛川実行委員会/公益社団法人国土緑化推進機構
後援: 林野庁/静岡県/掛川市/全国緑委連/全国市民会/全国町村会/美しい国づくり全国推進協議会/全国森林組合連合会/静岡県森林組合連合会
協賛: 公益社団法人日本緑委連会/公益社団法人緑委連会/グリーンバンク/公益社団法人大日本緑委連

NPO法人時ノ寿の森クラブ (掛川市)

- ・ 消滅した集落が荒廃していく姿を見て、有志による団体が発足
- ・ 森林保全(10年間で約400haの森林を整備)、森林資源利用(ヒノキなどを用いた「森の恵み石鹸」を商品化、普及啓発(時ノ寿学校、森の幼稚園)の3つを軸に活動を展開
- ・ 森林・里山との関りを考える
全国規模の企画を県内で初開催

里地・里山の保全活動を行う森づくり団体の課題

背景 ボランティア活動の多様化や自然とふれあう体験の減少など、社会情勢が変化

課題

1 団体メンバーの固定化・高齢化

2 活動経費の確保

3 活動内容の積極的な情報発信

これまで活動に参加していない都市住民や企業などが里地・里山の大切さを理解し、保全の行動に移るよう促す仕組みづくりが必要

県の取組（モデル事業の実施）

【これまでの森づくり団体の保全活動】

下草刈、間伐、放置竹林の除去等

【モデル事業】

生態系調査①（活動前）

下草刈、間伐、放置竹林の除去等

生態系調査②（活動後）

研修会の開催

森づくり活動が、樹木や鳥・昆虫などそこに住む生き物にどのような影響を与えているか生物多様性の視点から活動の前後の状況を調査

モデル事業を通じて得た調査手法や保全技術等を普及

県の取組（モデル事業の実施）

【目指す姿】

1 都市住民や若者層など新たな参加者を呼び込む

2 企業や他の団体と連携を強化し経費を確保

3 保全活動の意義や目指す姿を広くアピール

森づくり団体が都市住民や企業と連携して、持続的に活動することで、里地・里山と人々との関わりが再生し生物多様性の保全と活用が図られる仕組みを構築